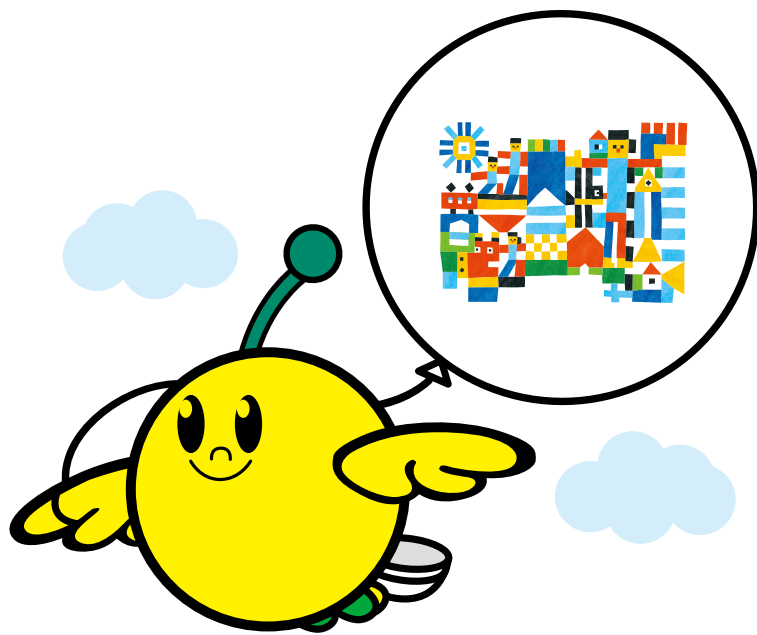


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

福島県
〔令和8年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から15年
余が経過しました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心
から感謝申し上げます。

震災と原発事故からの復興に取り組む福島県では、避難指示区域の大幅な縮小や
復興を支える拠点施設の整備が進んでおります。さらに、県内への観光客入込数が
初めて震災前の水準を超え、移住者数も過去最多を記録するなど、本県の復興は着
実に前進しております。一方で、今もなお、避難生活を余儀なくされている方々が
約2万3千人おります。古里への帰還を果たしても、多くの仲間と暮らしたかつて
の日常は失われたままであり、長期にわたる廃炉作業や、除去土壌等の県外最終処
分に向けた取組など、原子力災害特有の課題は依然として山積しています。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、国内外の皆
様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者
が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の
子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用
させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、挑戦を続け、希望と笑顔
あふれる福島県を築いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたし
ます。

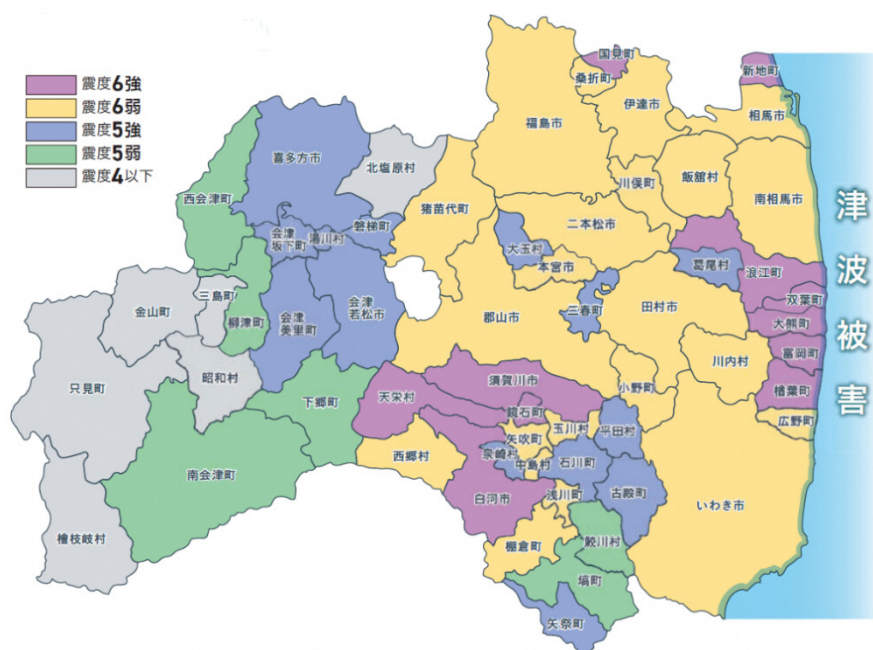
令和8年9月

福島県知事 内堀 雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災）は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。東京電力福島第一原子力発電所でも事故が発生し、未曾有の複合災害となりました。



地震や津波等により多くの尊い命が失われ、10万棟近くの住家が全半壊しました。また、原子力災害の影響で県土の1割を超える区域に避難指示等が発出され、多くの県民がふるさとを離れての生活を余儀なくされました。

震災から15年余が経過した今、避難指示区域の大幅な縮小や復興を支える拠点施設の整備が進んでおり、本県の復興は着実に前進しています。一方で、いまだに約2万3千人の方々が避難生活を続けておられるほか、被災者の生活再建、根強く残る風評と風化の問題など、多くの課題を抱えています。



福島県復興祈念公園



CREVA おおくま（大熊町産業交流施設）

撮影：Dory 誠

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えています。

○ 寄附の状況（令和8年3月31日現在）

寄附総件数 22,577 件 寄附総額 7,691,843,519 円

○ 被災孤児、遺児（令和8年3月31日現在）

- ・ 孤児：24 人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：180 人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用した事業について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしまこども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

（1）月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000 円、遺児：20,000 円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000 円、遺児：30,000 円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000 円、遺児：40,000 円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000 円、遺児：50,000 円）

（2）一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000 円	イ 小学校卒業時給付金	50,000 円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000 円	エ 高等学校卒業時給付金	300,000 円

4 給付実績（令和8年3月31日現在） 給付実人員 199 人 総給付額 852,060,000 円

寄附をくださった皆様へのメッセージ

○「福島県東日本大震災子ども支援基金給付金」をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも寄附をしていただいている皆様へ。
私は、小学生になる前に震災で父を亡くしました。その後、母と2人で関西で暮らしていました。
シングルマザーで大学への進学は、難しいだろうなと思っていました。
ただ、高校生活だけは良い思い出を残したいと思い、陸上競技に励みました。その結果インターハイに出場でき、また、寄附のおかげで進学もできることになりました。本当にありがとうございます。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 4年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄付をありがとうございます。
最近では気になる本があったため購入し、楽しく読んでいます。
これから猛暑に入るようですので、お体に気をつけてご活動ください。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 _____年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

夢に向かって岩手大学理工学システム創成工学科進学しています
今年3年生になりました。勉強しながらアルバイトしています。忙しい中で自分の決めた道で一步步成長していきたいです
そんな道を進むために私の家族支援してくれる大震災子ども支援基金皆様感謝します。
今年3年生です。来年4年、努力続けて勉強します。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

温かいご寄付を見易り、
バより御礼申し上げます。
皆さまの思いやりは、
子どもたちの笑顔や
挑戦する力につながっています。
バより感謝申し上げます。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

高専に入学して、5年間勉強して、機械・医工学コース卒業できる幸せです。東日本震災15年経過しました。この15年間いろいろな事がありました。何事にも、私の家族を支えてくださった支援の皆様本当に感謝してありがとうございます。これからは社会人として色々な人を支える立場になります。夢に向かって頑張ります。

学校 中学校・高校・大学・その他(卒業))
学年 〃 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

こんにちは。毎日、元気に学校生活を送っています。
3年生から4年生にかけて卒業論文の研究課題の取り組みと長期実習、また、授業内容も高度になってきます。自分の夢の理学療法士の資格取得を実現できるように勉強に励み頑張りたいと思っています。
ご支援ありがとうございます。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 〃 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

長い間の御寄附ありがとうございます。
ごさいます。震災時3才だった子供は今年4月に自分の夢に向かって専門学校へ入学しました。毎日勉強に励んでいます。ひとえに皆様の御支援のおかげと思っています。
本当にありがとうございます。
追伸:皆様に助けられた自分は今度は人を助ける役目になると言っています。感謝します。

学校 中学校・高校・大学・その他(保護者))
学年 〃 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災当時小学一年生だった子供が
〃四月から社会人として仕事に励んでおります。つく、悲しい出来事で不安な日々でしたが、皆様からの寄り添いに背を押され歩んでまいりました。心より感謝申し上げます。
今年の夏は酷暑になるといわれています。皆様どうかお体に気をつけてお過ごし下さい。

学校 中学校・高校・大学・その他(保護者))
学年 〃 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

子育てや、日々の生活に
目を向けて、1日いちにお過ごし
している間に、長い年月がたち
ました。子どもは15才になりま
した。お父さまのあたたかい応援
をいただき、あともう少し、がんばり
たいと思います。

学校 中学校・高校・大学・その他(母))
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

ご寄附ありがとうございます。
私は今、大学の文学部で学んでいます。
専攻しているのは日本語学ですが、
隣接する他の分野の講義も受けていて、
自分の視野や世界が広がったり、
異なる分野の知識が繋がっていくことに
日々面白さを感じています。
今年も猛暑が予想されます。
皆様どうぞご自愛ください。

学校 中学校・高校・大学()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災から15年の月日が過ぎますが
も変わらずご支援を賜り、誠にあり
がとうございます。
皆様からの寄附のおかげで何事
もなく普通の日常を過ごすことができ
ています。
来年からは本格的な受験勉強
が始まります。大学にいけるのか
当たり前ではないという方がいるなかで
目指すことができるのは皆様のおかげです。
これからもどうぞよろしくお願いいたします。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援ありがとうございます。
震災の年の1月に生まれましたが、皆様
のおかげで元気に過ごせております。
部活や勉強、学校生活などの充実した
日々を過ごし続けることができると感謝
し、これから1日1日を大切に頑張りたいです。
震災から15年が経過し、当時赤ちゃんだった私も
高校生になりました。皆様に支えられた恩を忘れず、
誰かを支えられる人間になります。
寄附は学校生活も精一杯努力を重ねていくので、今後とも、
成長を温かく見守っていただけますと幸いです。

皆様のご健康とご多幸をバよりお祈り申し上げます。

ファイト!!

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

2 「ふくしまこども寄附金」による支援について

福島県では、子どもたちの「心身の健やかな成長」、「学力、運動能力、情報発信能力や表現力等様々な能力育成」及び「ふるさと福島への愛着心醸成」など、県内の子どもたちの将来の夢や希望の実現を支援する事業に、「ふくしまこども寄附金」を活用しています。その支援事業の一部を紹介します。



震災・原発災の経験・教訓、復興状況伝承事業 (ジャーナリストスクール開催事業)

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において復旧・復興に取り組んでいる個人や団体に対して、これまでの努力や成果、今後の夢や目標等を取材し、新聞としてまとめ発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、将来の夢や希望を深く考える機会を設けた。

特別講師として、ジャーナリストの池上彰先生を招き、福島県立相馬高等学校講師で実行委員長の武内義明氏、福島民報社、福島民友新聞社の記者の方々に、講師として協力いただいた。

2 事業実施日及び参加者数等

実施時期：令和7年8月7日（木）、10日（日）～11日（月・祝）、16日（土）

参加者数等：39名（小学生 13名、中学生 20名、高校生 6名）、OB・OG 6名、
新聞発表会参観者 117名

3 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む方々と直接関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をさせることで、改めて震災と向き合い、復興に向かって踏み出そうとする自主性を支援することができた。また、作成した新聞は、県内外の避難者や県内の各学校に配付することで、復興に取り組む方々やそれに関わる子どもたちの活動を知らせることや、ふるさと「ふくしま」の現状や復興の取り組みを認識したり、福島の未来を考える機会を提供したりすることができた。



4 参加者の声

○福島を見つめ直す良い機会になりました。風化が進む中、震災の悲惨さだけでなく、新たに生まれ変わる福島を知ることができ、良かったです。

○復興はまだ終わっていない。未だ除染土壌は残っている。知って伝えることが大事。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 （TEL：024-521-7404）

こどもの居場所づくり支援事業



1 事業概要

こどもの居場所の新規開設及び中間支援の取組を支援し、活動基盤の強化を図ることによって、こどもたちの社会的孤立を防止するとともに、支援が必要なこどもやその家族を適切な支援機関につなげる仕組みづくりを行った。また、経済的に困窮する子育て世帯を支援するため、コミュニティフリッジの新規開設に必要な経費を補助した。

【実施事業】

- ① こどもの居場所づくり支援事業（新規開設及び広域の取組を支援）
- ② こどもの居場所基盤強化支援事業（研修会開催やアドバイザー派遣等の支援）
- ③ コミュニティフリッジ開設支援事業（新規開設を支援）

2 事業実施回数または補助団体数

- ① こどもの居場所づくり支援事業 17 団体
- ② こどもの居場所基盤強化支援事業 80 回
- ③ コミュニティフリッジ開設支援事業 1 団体



3 事業実施による効果

こどもの居場所の空白地帯の解消、充足率の向上によって、こどもたちが居場所へアクセスしやすくなった。また、こどもの居場所の経営基盤が強化されることによって、継続的にこどもたちを支援する体制が確立された。

4 参加者の声

- 子育て世帯にとって、困難を抱えた場合に相談できる場所としても浸透した。
- 広報ツールの活用により地域住民や企業からの理解が得られ、食材提供や活動資金の充実といった持続可能な協力関係の構築につながった。

5 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

ふくしまの夢応援事業



1 事業概要

県内に拠点を置く5つのプロスポーツチームと連携し、次の3事業を実施した。

【連携したプロスポーツチーム】

- サッカー：福島ユナイテッドFC、いわきFC
- バスケットボール：福島ファイヤーボンズ
- バレーボール：福島デンソーエアリービーズ
- 野球：福島レッドホープス

【実施事業】

① ドリーム教室

各チームの選手やコーチ等が学校やこども園等を訪問し、運動教室を実施。

② 地域の子どもたちとの交流会

スポーツ少年団や部活動等に所属する地域の子どもと、プロスポーツチームに所属しているユースチームとの交流大会を実施。

③ ホーム公式戦における特別な体験機会の提供

公式戦において、選手入場時のエスコートキッズや、スタジアム DJ 等の職業体験等を実施。



2 事業実施回数及び参加者数

① ドリーム教室：44 回、参加者数 2,271 人

② 地域の子どもたちとの交流会：4 回、参加者数 417 人

③ ホーム公式戦における特別な体験機会の提供：10 回、参加者数 1,406 人

3 事業実施による効果

参加した子どもに喜んでもらうだけでなく、特別な機会や経験を提供することで、子どもたちの心身の充実、健全な育成につなげることができた。

4 参加者の声

- 選手に優しく教えていただき、参加してよかった。
- 選手が学校を訪問してくれて、とてもうれしかった。
- プロの選手の動きを間近に見ることができ、良い経験になった。



5 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課 (TEL: 024-521-7102)



アートで広げる子どもの未来プロジェクト

1 事業概要

アーティストを講師として学校等へ派遣し、文化芸術による心豊かな成長と創造力や感性を育む機会を提供した。また、市町村や文化施設等と連携し、将来的にアートを活用した子ども向けの文化活動が地域の中に定着するよう支援した。

2 事業実施回数及び参加者数

37 回、538 名（成果展示来場者数 961 名）

3 事業実施による効果

美術作家を講師として招き、交流しながら一緒に制作を楽しむことで、いつもとは違う

「つくる喜び」を体験し、子どもの創造性を育むワークショップとなった。また、子ども達の住む地域の自然に触れ、歴史や文化を学びながら、制作に取り組むことで、子ども達が周囲との繋がりを再認識するきっかけとなった。



4 参加者の声

- 色に名前をつけることで、色の世界にイメージがよりしっかりついて、奥行きが生まれて深みが出るので、より色に対しての理解が深まったように思います。
- 完成した動画を見て、頑張った甲斐があったなと思いました。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 文化振興課（TEL：024-521-7154）

若者の県内定着のための看護の魅力発信事業



1 事業概要

小学生、中学生、高校生を対象とし、医療の現場で実際に働く看護職員や看護技術に触れる機会（出前講座、医療機関における体験等）を創出するため、次の3事業を実施した。

【実施事業】

- ① 看護の出前講座実施事業
- ② 高校生の一日看護体験実施事業
- ③ 看護体験イベント開催事業

2 事業実施回数及び参加者数

- ① 看護の出前講座実施事業：32回（1,949名）
- ② 高校生の一日看護体験実施事業：68回（385名）
- ③ 看護体験イベント開催事業：1回（1,313名）※2日間実施計



3 事業実施による効果

児童・生徒が看護職の仕事や役割、いのちの大切さなどを学ぶ機会を創出し、看護職への理解と興味・関心、将来の職業選択に向けた意識の醸成を図ることができた。

4 参加者の声

- 楽しかったし、看護師さんの仕事を知れてうれしかった。
- 産婦人科の看護の仕事体験で赤ちゃんを初めて抱っこしてみて温かいと感じた。この体験を通じて看護師になるという決意を固めることができた。

5 お問い合わせ先

福島県保健福祉部 医療人材対策室（TEL：024-521-7222）



ふくしま絆ふれあい支援事業

1 事業概要

家庭や地域における人と人との関わりの中で感じた思いや願いなどを十七音で表現することとおして、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図った。また、県内外からふくしまへの思いや震災体験、それ乗り越えてきた気持ちを詠んだ作品も募集し、震災の記憶の継承と復興に向けた想いを共有する機会とした。

【募集】○絆部門：日頃考えていること、日常生活等での共通体験をとoshした十七字

○ふるさと部門：ふくしまへの思い、復旧・復興について、震災の記憶の継承、ふるさととしての福島よさ、願いについての十七字

2 応募総数及び受賞数

応募総数：36,166組（72,332名）、受賞者：10組（20名）

3 事業実施による効果

県内各地から多くの作品が寄せられ、作品からは、親子など様々な人間関係の中で育まれる心の交流が読み取れた。共通の体験を十七字で表現することで、地域の自然や文化に触れ互いを敬うとともに、震災の記憶の継承と復興に向けた想いを共有する機会となった。20年以上の長きにわたり本事業を続けてきたことで、子ども時代に参加した人が、今度は親として参加した事例があるなど、世代を超えた温かな交流や絆が生まれている。



4 参加者の声

○十七文字で表すのは難しかったです。けれど、祖母も私も何度も俳句を書き直し、辞書を片手に感想を伝え合うのはとても楽しい時間でした。その時間を通して、祖母との絆は深まり、さらには試行錯誤する中で新しい言葉を知ることができました、互いの温かさ、夏の涼しさも詰まったいい機会になりました。

○子と向き合うよい機会となりました。娘の一句と合わせて、親子で会話をし、一緒に感じたことを言葉にできたことが何よりの喜びです。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）



理数コンテスト事業

1 事業概要

福島イノベーション・コースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系の人材）を育成するため、次の4事業を実施した。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（算数・数学コンテスト）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（理科コンテスト）
- ③ 先端技術体験
- ④ 「科学の甲子園」福島県大会

2 事業実施時期及び参加者数

- ① 令和7年10月19日（日） 504名
- ② 令和7年8月8日（金） 122名（42チーム）
- ③ 令和7年12月20日（土） 19名
- ④ 令和7年11月10日（日） 86名



3 事業実施による効果

児童生徒の理科・数学の興味や関心を高め、挑戦する心を育成することができた。また、チームで課題解決に向かうことの大切さ、困難を乗り越えた達成感等を味わうこともでき、コンテストや大会を通じて、理数教育の充実や、福島の復興を担う人材育成に寄与することができた。

4 参加者の声

- 同じ福島に住んでいるとは思えないくらい初めて知ることが多く、教科書や学校などでは学ぶことができないようなことを学ぶことができた。
- 福島県にたくさんの先端技術があって驚いた。これから未来ではこのような技術が日常的に見ることができるように、もっと勉強して開発していきたいと感じた。
- 理科、数学を勉強する楽しさが改めて分かった。
- 震災から立ち直る福島のことがよく分かった。自分も復興に関わる活動をし、よりよい福島にしていきたい。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課（TEL：024-521-7774）

高校教育課（TEL：024-521-7772）

元気なふくしまっ子食環境整備事業



1 事業概要

小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを広く県民に発信することにより、子どもたちの食育や地元の食材に対する理解を深め、併せて、地場産物の活用率の向上にもつなげた。

2 応募点数及び参加校数

小学生：5,801点（274校）、中学生：11,182点（134校）

3 事業実施による効果

料理コンテストをとおり、家庭での日本型食生活についての関心の高まりや、毎日愛情を込めて食事を作っている家族への感謝の気持ち、ふるさとを愛する心を育むことができた。また、入賞作品のレシピを掲載したチラシを県内のスーパーの店頭や、地場産物販売コーナー等で県民に広く情報を発信することで、家庭における食生活の改善や地場産物の活用促進の一助となった。

4 参加者保護者の声

○「ふくしまっ子ごはんコンテスト」に応募するにあたり、お弁当のテーマを決めたときから、子どもが地元の野菜に興味を持ち、どんな食材を使うかを一生懸命考えました。「色どり」「栄養」「味のバランス」など一緒に話し合い、工夫を重ねていました。自分で作ったお弁当が完成したときには誇らしげで、その姿に成長を感じました。このコンテストを通して、福島食材の良さや料理の楽しさを改めて学び、自信につながったと思います。これからも食を通して、人を笑顔にできる経験を積んでほしいです。



○最近仕事が忙しく、なかなかゆっくり話す機会がすくなくなってしまったお父さんに食べてほしい献立を考えることにしたそうです。お父さんが手軽に食べられて、栄養が摂れるもの、好きなものなどを考えてみると、いろいろな食材や献立が思い浮かんだそうです。試作の度に感想を話したり、家族のコミュニケーションが深まるよい時間でした。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）



夢に向かってテクノチャレンジ事業

1 事業概要

震災から立ち上がり、自信と向上心をもって生きることができる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部で取り組んでいる進路に関する学習について、県内全ての特別支援学校の生徒が一堂に会して学習の成果を発表し、外部専門家からの客観的な評価を受ける機会を通して、生徒の自立と社会参加につながる知識や技術の向上を図った。

2 事業実施時期及び参加者数

令和7年7月30日（水）、県内特別支援学校高等部生徒 196名（20校）

3 事業実施による効果

本県における特別支援学校高等部卒業生の企業就職率は、作業技能大会開催後は徐々に増加してきており、10年前は17.1%だったが令和7年度は27.4%と、10年で10ポイント程度上昇している。作業技能大会を継続して実施してきたことで、雇用促進に向けて幅広くアピールすることができている。

4 参加者の声

- この大会を機にメンタルが強化されました。学校でも積極的に発表やたくさんの事に取り組んでいきたいと思えます。
- 支援をしていただいた皆様に届けることができるように、製品たくさん作り、精一杯頑張ります！！



5 お問い合わせ先

福島県教育庁 特別支援教育課（TEL：024-521-7780）

ロボット技術力発信応援事業



1 事業概要

ロボット競技大会に出場する工業高校におけるロボット製作活動の過程において、地域企業や大学等と連携し先進技術の指導を受けることで、課題解決の力を身につけるとともに、知識・技術の高度化とものづくりへの意識向上を図り、高度な知識・技術を習得した。

2 事業実施時期及び参加者数

令和7年9月5日（金）、150名

3 事業実施による効果

先進的な素材や先進的な技術について学ぶことで、生徒の豊かな想像力とものづくり力を育むことができた。また、ものづくりへの意欲向上が図られるとともに、連携した企業等への理解を深めることで、福島県の産業や復興を支える人材育成につながった。



4 参加者の声

全国トップレベルの技術や研究に触れたことで、自分の将来について具体的に考えるきっかけとなりました。ものづくりや工業分野への関心が一層高まり、学んだ技術を将来の仕事や地域社会で生かしたいという目標を持つことができました。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）



地域で支える子育て推進事業

1 事業概要

地域の特性を活かした自主的な子育て支援や親支援の活動を促進し、地域全体で子育てを支援する機運の一層の向上を図るため、多様なニーズに対応した民間団体の取り組みを支援した。

2 補助団体数

15 団体

3 事業実施による効果

地域の特性を活かした子育て推進事業の実施により、社会全体で子育てを支援する機運の一層の推進を図ることができた。



4 補助団体が実施した事業に参加した参加者の声

- 気持ちを分かってくれる方たちと話せるのは、私にとって気持ちが楽になりました。これからどうしていけばいいのか色々見えてきました。
- 普段の生活では得にくい、「初めての経験」や「自分でやってみる経験」を積むことができ、参加した子供たちの興味関心の広がりにつながった。
- 子どもたちにとって、学校や家庭以外の居場所や、自分の可能性を感じられる機会となった。

5 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7198）



子どもを守ろう！見守りサポーター養成事業

1 事業概要

CAP プログラムによるワークショップを学校や保育所等で実施し、子どもに人権の大切さや虐待等から身を守る方法、信頼できる大人への相談方法を伝え、また、大人が子どもの人権や子どもへの適切な関わり方を体験的に学ぶことで、県民へ広く虐待防止の教育、啓発を行った。

※CAP とは、Child Assault Prevention（子どもへの暴力防止）の頭文字をとったもので、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分を守るための人権教育プログラム。

2 事業実施回数及び参加者数

8 市 5 町 2 村（45 カ所、89 回）、1,405 人（大人 894 人、子ども 511 人）

3 事業実施による効果

保護者や教職員等が、子どもの権利や子どもへの暴力に関する正しい知識、相談を受けた際の適切な聴き方を学ぶことで、子どもの権利に対する意識が高まった。これにより、子どもの安心・自信・自由の確保と「見守りサポーター」の増加につながった。

4 参加者の声

- 今日学んだことを子ども達に実施したい。「あなたは大切な人」だと、子ども達だけでなく周りの人達にも伝えていきたい。
- 不審者に連れ去られそうになった時の自分の守り方がわかった。役に立った、安心した。
- 誰かに相談された時、相手の立場になり、寄り添い支えられる人間になりたいと思った。



5 お問い合わせ先

福島県こども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

未来に進もう！こどもの夢応援事業



1 事業概要

児童養護施設等を退所し、進学する者について生活を支援する生活給付金、進学・新生活準備のための入学支度金、住居契約の更新等の臨時支出費用のための臨時給付金を給付することで、経済面の安定を図り、自立のための支援を行った。

2 給付実績

生活給付金：27名
入学支度金：10名
臨時給付金：4名

3 事業実施による効果

保護者等からの経済的支援が見込まれない施設退所等児童に対して給付金を支給することで、進学に対するためらいを除き、施設退所等児童が希望する進路を選択することができる環境が整備された。

4 お問い合わせ先

福島県こども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

- 「未来に進もう！こどもの夢応援事業」で給付金をお届けしている生徒の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

毎月のご支援ありがとうございます。生活費や学校の教材費、様々な場面で使わせていただいています。日々の生活の中で経済的な不安がなく学業に前向きに取り組めているのは、支援してくださっている皆様のおかげです。これからも自分の目標に向かって頑張っていきたいと思います！

支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、将来に向けてより一層努力していきたいです。

いつもありがとうございます。毎月の御支援があるため、この大学生活が充実して送れています。いつも支えてくださりありがとうございます。大学では福祉について学び将来の糧となるよう日々励んでいます。今度ともよろしくお願い致します。

毎月のご支援ありがとうございます。皆さまの温かい寄付のおかげで、アルバイトとの両立に追われすぎることなく、勉学にもより力を入れて取り組むことができます。本当にありがとうございます！

経済的な不安が軽減され、安心して学業に取り組むことができます。

私たちの未来を応援し、温かいご寄付をいただき本当にありがとうございます。皆様の優しさに支えられていることを忘れず、自分の夢や目標に向かって、これからも日々の勉強や活動に励んでいきます。

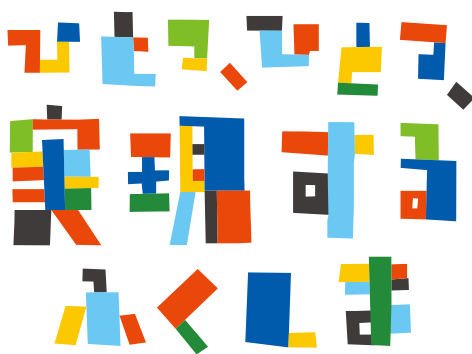
ベコ太郎



寄附をくださった皆様から福島の子どもたちへのメッセージ

国内外の寄附者の方々から、福島の子どもたちへ、たくさんのメッセージを寄せていただいています。その中から、一部をご紹介します。

- 震災及び原発事故から 10 数年が経ちましたが、皆さんのことを忘れたことは消してありません。これからも皆さんのことを見守り続けていきますので、健やかな成長とふるさと福島の復興をお祈りします。 (岐阜県、個人)
- 私たちはこれからも「東日本大震災を忘れないこと」「被災地の応援を続けること」「正確な情報発信で伝えること」の 3 つを基本に、被災された方々を想う気持ちを大切にしながら、被災地との架け橋となる取り組みを続けていきます。 (神奈川県、会社)
- あなた方の未来や希望にすこしでもお役に立てればと思い、ずっと寄付させていただいています。これからもいつも見ていきたいです。安心してくださいね。 (東京都、個人)
- あなた方が前を向いて歩いてくれていることに勇気づけられます。時に、立ち止まり、後戻りすることがあっても、諦める事だけはしないで。遠くからあなた方の成長を見守っています。福島の未来、日本の希望。 (栃木県、会社)
- フランスで毎年 1 回行っている東北の子供達のために支援イベントで集まった義援金をお送りします。遠くからいつも応援しています。 (フランス、個人)
- 皆様に明るく楽しい未来が広がりますよう、いつも遠くから応援しています。一日も早く、不安のない平穏な日常が戻りますように。 (広島県、会社)
- 東北には親戚・知人がおり、震災の話はよく聞いております。遠い九州からもまだ応援していることを知って頂けたら幸いです。 (福岡県、個人)
- 健やかに、たくましく、くじけずに、成長してください。みなさんには、たくさんの応援団が付いて、見守っています。 (東京都、個人)
- 震災遺児・孤児の方たちが社会人になるまでご支援したいと思います。 (福島県、会社)
- 一人ぼっちではありません。どうぞ頑張ってください。皆さんを心から応援しています。 (群馬県、団体)
- 店頭に置いております募金箱の「ふくしま」の文字に目が留まり、ご賛同下さったお客様のお気持ちです。孤児、遺児の皆さんが成人されるまで続けさせていただきます。 (京都府、会社)
- 皆さんが日々成長して夢に向かって頑張っている姿に胸が熱くなりました。私ができることはほんのささやかなものですが、これからもずっと応援していきます。皆さんの将来の夢はきっとかないます。これからも夢に向かって歩み続けてください。 (東京都、個人)
- 東日本大震災で被災された方々のことは、決して忘れません。特に子供たちが希望を持ってより良き将来を生きられるよう願っております。 (福岡県、個人)



令和8年9月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail: kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

[福島県庁ホームページ](#)

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)